

サンカルシューム

水溶性カルシウム(Ca) 7.5% NET 20kg

カルシウムは水と共に植物体内に吸収されることから、高温乾燥時期が要注意で土壌中の根の張り方も大きく関係してきます。また過度の施肥による濃度障害も要因として考えられる事から、土壌分析により適度の施肥をおこなうことが重要です。

早めに、サンカルシュームで手当をしてください。

カルシウム欠乏症の発生要因

1. アンモニア態Nはカルシウムの吸収を妨げる。
アンモニアの比率が高い土壌ほど、トマトの尻腐れ果の発生が多いと言われる。
2. 蒸散の盛んな部位には、カルシウムが多く吸収される。
蒸散の少ない若い部位へのカルシウムの転流は夜間の水揚現象が大きく関係、夜間の温度が低いほどカルシウム欠乏を誘発しやすい。
3. 土壌の乾燥が続くとカルシウム欠乏がでやすい。
他の元素は根の活力に依存して吸収され、水の流れとは無関係に必要な所に移行するが、カルシウムは水の流れとともに吸収、分配される。
4. ポット苗などの定植の際、活着不良や浅根や上根。
高温期、土壌乾燥したまでの定植や、低温期、土壤地温の低いまでの定植などが、その後カルシウム欠乏への原因となる。
5. 土壌中に養分が過剰の場合（土壌分析より）
カリウム・マグネシウム・アンモニアN・リン酸などが過剰に土壌にある場合もカルシウム欠乏への原因となる。
6. 急激な気温の上昇によるカルシウム欠乏。
気温の上昇とともに蒸散作用が激しくなると、吸収されたカルシウムは水とともに蒸散の激しい外葉に移行するため先端葉にはカルシウム不足、欠乏症となる。

カルシウムは植物体内では、ペクチンや有機酸と結合して存在し、再移動しにくい成分であることから常に供給されなければならない。

サンカルシュームの使い方

植物は初期にはリン酸をしっかりと効かせることが重要ですがカルシウムは仕上げの時期にしっかりと効かせる事が重要です。
生産ステージの中期～後期にかけて

葉面散布の場合…500～1,000倍にて使用
流し込みの場合…10アール当、原液5ℓ 使用

注意事項

1. 一旦溶いた液は使い切って下さい。
2. 開封使用後、原液が残っている場合は早めに密栓をして保管して下さい。
空気に長時間ふれると固結しやすくなります。
3. 原液pHは4.5です、強アルカリ剤との混用はさけて下さい。



株式会社 サンセイ